

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月26日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4590100246		
法人名	有限会社あおき		
事業所名	グループホームあおき園2番館		
所在地	宮崎県宮崎市山崎町佐牟田1409-2 (電話) 0985-65-7065		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町2番22号		
訪問調査日	平成20年11月18日	評価確定日	平成20年12月26日

## 【情報提供票より】 (平成20年9月18日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成20年1月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤9人, 非常勤0人, 常勤換算7.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	29,910 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (89,730円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / (無)
食材料費	朝食	350 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(平成20年9月18日現在)

利用者人数	9名	男性 4名	女性 5名
要介護1	2	要介護2	4
要介護3	0	要介護4	2
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 80歳	最低 67歳	最高 88歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	野崎東病院、生協病院
---------	------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

平成20年1月開設。10か月が経過したところである。山崎町の住宅街のいちばん奥に位置し、敷地から先は広大な田園地帯が広がり、ハウスや季節の農作物が一望できる静かな環境にある。ホーム内は安全にこだわり、バリアフリーと、空間をうまく活用した造りになっている。室内は木造りで温かさを感じられる。玄関に出ると敷地沿いに深い側溝と坂道がある。代表者は「利用者の安心・安全・居心地のいい居場所」を理念に、そのためには、職員が働きやすい職場にすることで職員への精神的・身体的支援を惜しまない。職員も代表者の思いに応え、利用者の思いに寄り沿った支援を目指し努力をしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	開設からの歴史が浅く、今からのホームとの自覚が管理者を中心に職員にもある。自己評価のねらいを理解し、ホームの質の向上への意欲が感じられる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、公民館長、民生委員、市議会議員、在宅医、歯科医師から構成されている。地域の活動状況やホームのあり方、ホーム便り等を中心に報告協議するにとどまり、まだ、この会議を活用するに至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議には家族も参加しているが、まだ家族会の発足には至らない。意見箱の設置はあるが、苦情・相談の例はない。職員や家族はホームの質の向上に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域での夏祭りの参加やホームの敬老会では、地区の老人会の協力をいただいたが、まだ日常的な地域との交流には至っていない。

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念の共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者の「安心、安全、安楽な居場所」を目標として、管理者と職員が共同で理念を作りあげている。玄関の目に付きやすい位置に掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設10か月となるが、毎日の支援に、理念が生かされるように努めている。	○	毎日の朝のミーティングや月2回の業務検討会議において、全職員が理念の意識を高め共有することで、理念に沿った支援の実践に努めていただきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での夏祭りの参加やホームの敬老会では、地区の老人会の協力をいただいたが、まだ日常的な地域との交流には至っていない。	○	地域の区長、民生委員、老人クラブ、婦人会や地域包括支援センター、行政機関との関係を築き、ホームが地域の一員として活動しやすい協力関係を築いていただきたい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	開設からの歴史が浅く、今からのホームとの自覚が管理者を中心に職員にもある。自己評価のねらいを理解し、ホームの質の向上への意欲が感じられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、公民館長、民生委員、市議会議員、在宅医、歯科医師から構成されている。地域の活動状況やホームのあり方、グループホーム便り等を中心に報告協議している。	○	運営推進会議では、ホームの取り組み状況や解決が困難である検討事項、ホームの地域への貢献等を話し合いながら、地域の社会資源を活用し、サービスの向上のために積極的な地域への参加を期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での機会をまだ得ていない。現在は近隣の老人会や子供会、婦人会との連携を取りホームを理解していただくことに努めている。	○	開設間もないホームでは問題点や行政への質問また、職員の育成等多くの検討事項が山積しがちである。普段から行政機関や行政職員との関係を持ち活用することでサービスの質の向上を図ることを期待したい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回看護師や介護士が食事の摂食状況や検診結果、暮らしぶり、園便りを郵送し、知らせている。今後は日々の暮らしぶりのスナップ写真も家族に送る用意がある。	○	預かり金の制度は無いが、日常生活で日用品が必要になった場合は、立替払いを導入している。1冊の金銭出納帳に公的備品と私的備品の出し入れが記入されているが、立替払い分の入金がわかり難く、公と私を分けての記録が望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や不満の相談窓口は重要事項説明書に明記され、玄関に意見箱が用意されている。また、行政や第三者機関の苦情相談窓口も明記されている。ホームでは、現在まで例はない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現時点まで職員の異動はない。担当者の変更の場合、家族と利用者にわかりやすく理由を説明し、動揺がないように配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政機関の研修は、交代で受講している。必要に応じた内容を作成し、同法人のグループホームと合同研修を実施している。	○	研修の復命書が提出されているが、管理職のみ押印がされている。全職員が共有することが必要であり、研修の有効活用を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会と系列のグループホームでの交流や勉強会等の活動を通じてサービスの質の向上に努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者や家族の状況、地域での活動等を事前に調査し理解している。希望に応じてホームを開放し、入居者との交流を通して、職員や利用者、ホームの空気に徐々に馴染めるように家族と相談をしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者がこれまで培ってきた能力は、懐かしい郷土料理であったり、その時代の歌の披露であったり、手まりや折り紙の手作業等が伝授されている。介護される一方の立場ではなく、支えあい、また、喜怒哀楽を共にする関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や語りかけを通して、一人ひとりの思いや希望が把握されている。困難な場合には、家族や本人に確かめながら検討している。	○	ホーム以外の支援に携わる方々の情報も取り入れながら、本人の思いや希望、意向を把握につなげることを期待したい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成では、入居前の情報収集に加え、本人はもとより家族、介護担当者、看護師の意向や意見を反映させている。ホーム内に担当者会議を設け、さらに多くの意見やアイデアを介護計画書に取り入れるように努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には6か月で見直しをしている。しかし、介護記録やバイタルチェック表に異常が見られた場合は、随時見直しをして介護計画の変更をしている。変更の記録は見やすく誰にでもわかりやすく、その理由が明確に伝えられている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援には至っていない。	○	法人内の別グループホームと共同で、活用できる機能をさらに研さんし、ホーム内・外にアピールしながら、柔軟な支援にすることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の掛かりつけ医で適切な医療を受けている。また、月2回の往診の日程にも柔軟性を持たせて適切な医療を受けられるように支援している。	○	今後、個別の身体状況や血液検査結果の事後指導等について、掛かりつけ医と事業所が気軽に話し合える関係を築き上げることが望まれる。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設後まもなく終末期ケアの経験している。医師やホームの職員、家族で話し合いを繰り返し対応の方法を検討した。その後、さらに検討を重ね、内容の充実を図るよう努めている。	○	医療機関や介護職員、家族との連携を密にし、社会資源の活用も視野にいて、重度化を想定した対応を確立することを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	その人の人格を尊重し排泄、入浴、食事の支援等は、個々人にあつた声かけや誘導を心がけている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように、利用者の能力に応じ、職員と一緒に準備や片付けをしている。食後は、昔話しや、昔から身に付けた特技の伝授等、微笑ましく、楽しい団らんの場作りに努めている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間は一応決められているが、健康状態や本人の希望に応じ、日中問わず入浴を楽しめる支援をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、生活歴から趣味や楽しみ事を引き出し、川釣りや折り紙教室、また、その人の力量にあわせた役割作り等の支援をしている。	○	自分ひとりで楽しみや役割が作れなくなった利用者の身体で覚えこんだ記憶や楽しみごとを、掘り起こすことのできるふれあいを期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるような支援には至っていない。	○	住み慣れた故郷のお祭りや行事、墓参り等への参加、利用者が戸外に出かけられる機会を多く持てるように、勤務体制や業務の見直しを図ることを期待したい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵を掛けることの弊害を理解している。夜間、早朝を除き玄関の鍵は掛けられていない。利用者は職員の見守りで、出入りの自由を確保されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の連絡網、避難場所の用意、地域の防災組織との連携はある。しかし、利用者が避難できる方法を身につけるには至っていない。また、近隣住民の協力関係もまだ得られていない。	○	立地上、台風による水害や地震対策が望まれる。日ごろから、消防団や地域・近隣の住民との関係を築き、定期的に避難訓練や消防団員の協力を得て防災知識を高めるように努めていただきたい。消火器の設置場所の明示もお願いしたい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日に必要な栄養摂取量に基づき献立を作成している。毎日の食事と水分の摂取量をチェック表で管理し健康管理の支援をしている		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間はすべてゆったりしたスペースで、不快な音や光がないように配慮されている。居心地良く過ごせるように、窓ごしに見えるベランダには季節の草花が植えてあり、心をなごませる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はクローゼットと作り付けの棚で室内の凹凸を少なくし安全性に重点がおかれている。家族と相談しながら使い慣れた物や好みの物が置かれている。		

※  は、重点項目。